

Title	日本の企業集団にみる構造再編への課題
Sub Title	
Author	木田章(Kida, Akira) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1680号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1680">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1680</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	柴田 研究会	学籍番号	80028317	氏名	木田 章
(論文題名)					
日本の企業集団にみる構造再編への課題					
(内容の要旨)					
<p>日本企業が事業構造の再編に向けて解決すべき課題は、余剰になった人員の削減やテクニカルな手法を用いた組織上の再編成による一時的な財務体質の改善だけではないという前提に立った。</p> <p>インタビューを通じてマネジメントの不在と関係会社管理に見られる経営管理制度の甘さという問題が明らかになり、この問題が何故起きているのかを調査することによって課題の本質に近づけるのではないかと考えた。</p> <p>そして、理論的アプローチにより従来の日本企業の経営管理制度の下では、委譲された意思決定のコントロールにおいて十分な評価制度が確立されてはならず、このことがマネジメントの育成を阻害し、ひいては企業全体の管理機能を低下させているということにたどり着いた。</p> <p>また、経営環境の変化を与件とした上で、企業業績悪化の原因を管理制度の機能低下により説明し、その主因をトップ・マネジメントに求めた。</p> <p>さらに、企業に対するアンケート、財務諸表分析、トップ・マネジメント選抜のメカニズム等を組み合わせた調査研究では、従業員のモチベーションや帰属意識に影響する経営基盤、とりわけ経営理念やビジョンなどの価値観創造の脆弱さに課題の多くが収斂することを突き止めた。</p> <p>最終章では、この価値観の喪失を引き起こした遠因を従来の日本の経営システムに求める考察を行った。</p>					